

(仮称) 町田市教育プラン 2024-2028 策定に関する市の考え方について

1 計画策定にあたり必要な視点

以下の3つの点を計画策定にあたり必要な視点として重点的に検討し、計画に盛り込みます。

(1) デマンドサイド（児童生徒、保護者の皆様、教員、市民の皆様）の視点で満足度向上を図る

- ・児童生徒や保護者の皆様、教員、市民の皆様の満足度を向上させるため、サプライサイドからデマンドサイドの視点で施策を検討します。
- ・学力や体力の向上とともに、児童生徒などが求めている様々なニーズをしっかりと捉え、短期的な取組みだけではなく、中長期的な取組みを見据えた制度設計を行い、持続可能な施策を検討します。
- ・2019年度から実施している教員の働き方改革は着実に実績を挙げているものの、昨今の教員不足等の実態を踏まえ、教員の満足度向上は喫緊の課題であることから、教員の勤務実態など、置かれている現状をきめ細かく把握・分析し、満足度向上に資する施策を検討します。

(2) 経営の視点を持つ

- ・計画に位置づける事業については、他自治体や民間事業者の事業をベンチマークし、より効果的な手法や事業内容を検討します。
- ・環境変化へ即応するため、事業成果が出る前の段階から次の事業展開を見据えることができるような仕組みを構築します。(例：OODAループ^{※1}の活用)
- ・SDGsやESD^{※2}、多様性の理解など社会的な価値観の変化へ対応するため、現時点で想定し得る将来を見据え、事業自体に柔軟な対応がとれるよう検討します。

(3) 市の独自性を発揮する

- ・文部科学省などの国や都の方針を参照するだけでなく、市の現状や未来を見据えた状況を考慮した事業内容を検討します。
- ・町田市ならではの教育を目指し、他自治体に先駆けて実施している新たな学校づくりなどを契機とした魅力的な事業を検討することで、町田の教育の質を高めます。
- ・「子どもにやさしいまち」、「みどりが豊富」、「大学、短期大学、専門学校などが多い」など、町田市の強みを教育分野に取り入れることで、事業の付加価値を高めます。

^{※1}OODAループ：状況が変化する現場で、迅速に意思決定を行うための枠組み。Observe（観察する）、Orient（方向づける）、Decide（決断する）、Act（実行する）。

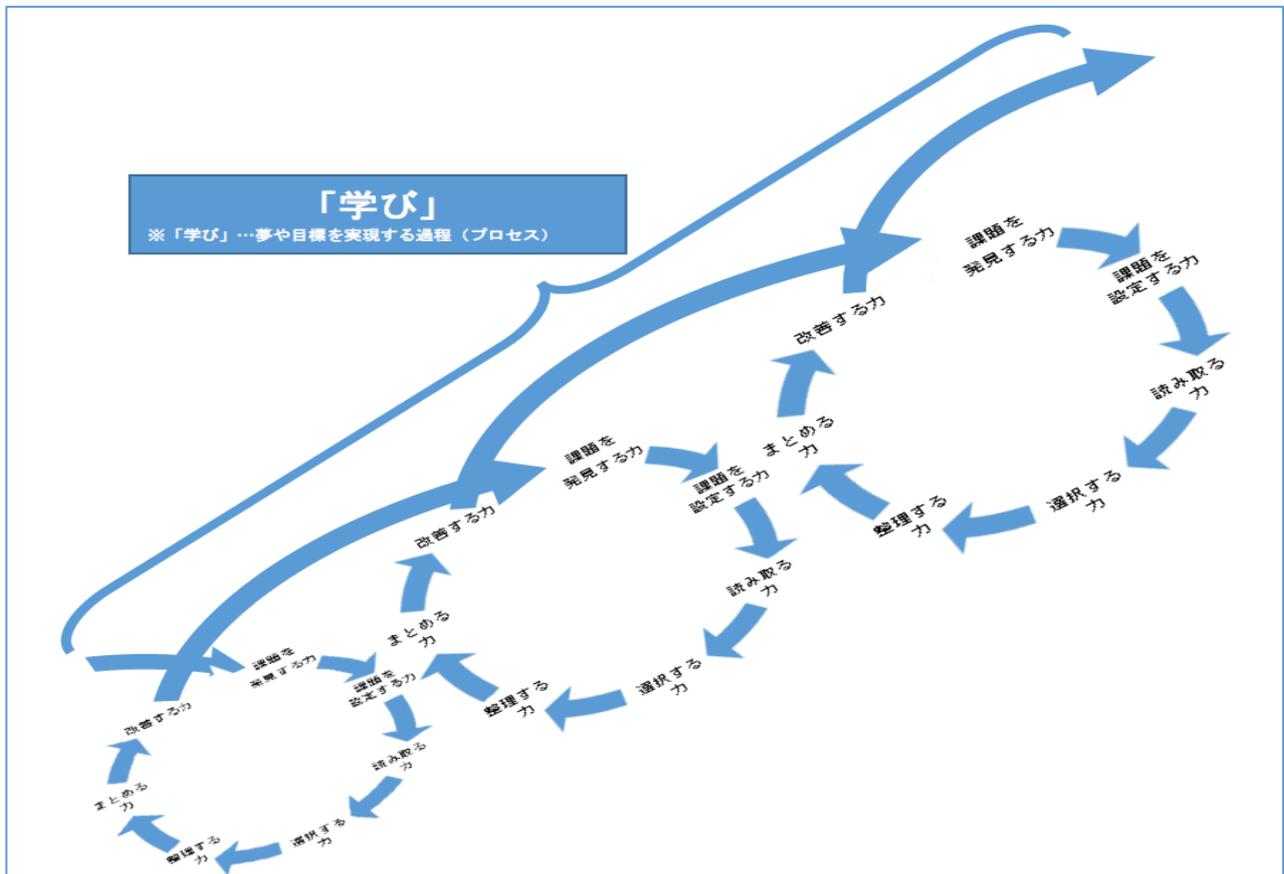
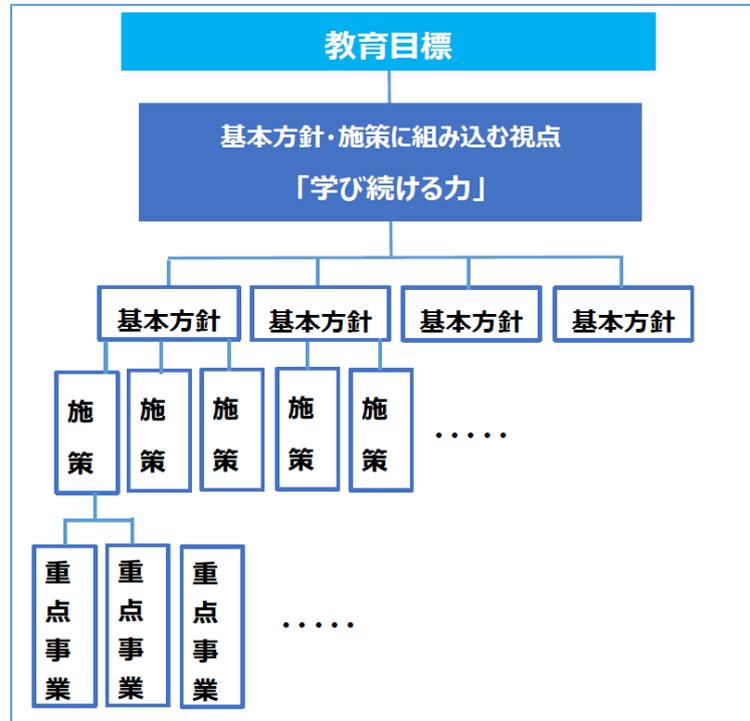
^{※2}ESD：持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）。

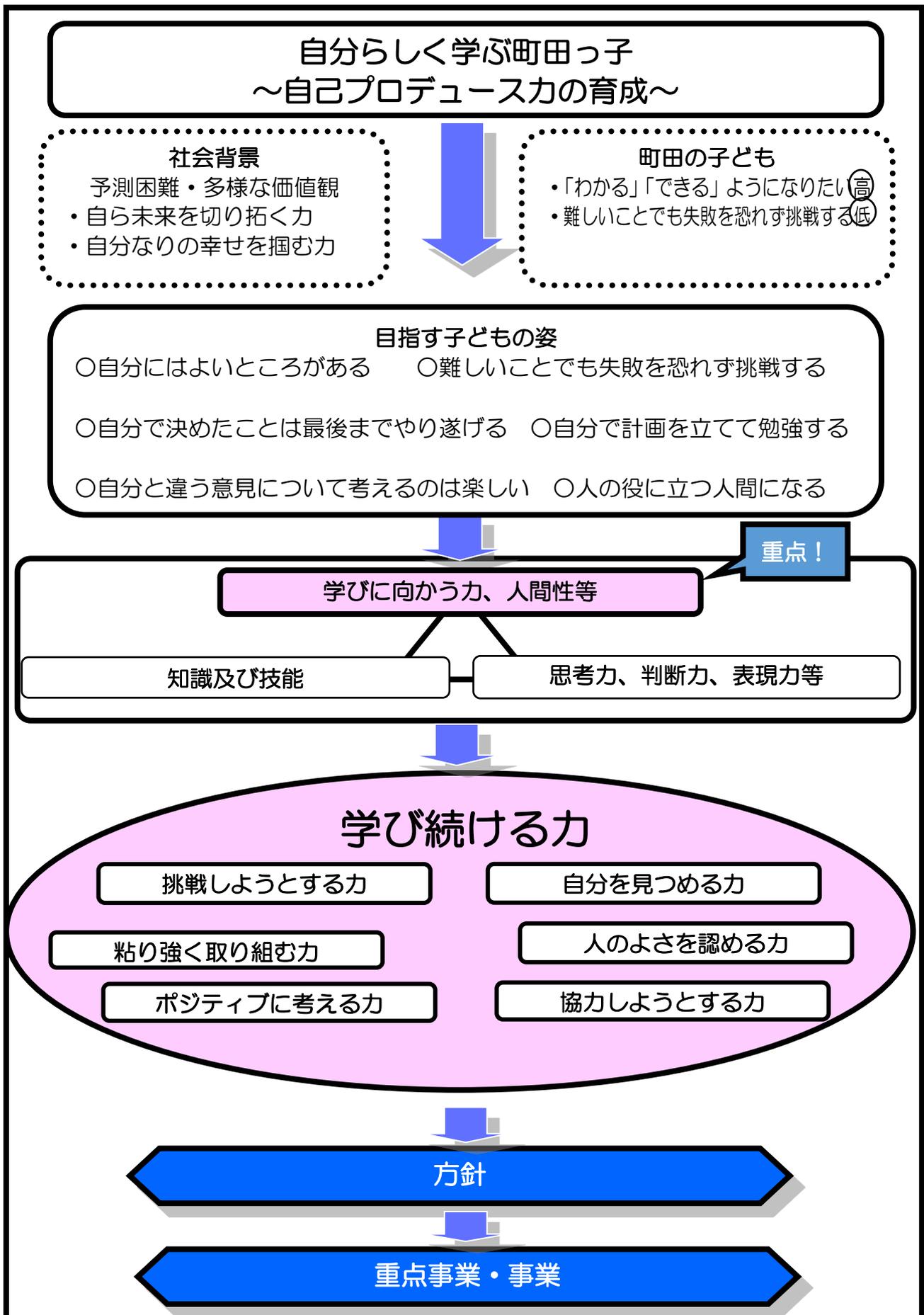
2 基本方針・施策の策定にあたり必要な視点

以下の「学び続ける力」を基本方針・施策に組み込む視点として、軸となる考え方に設定します。

学び続ける力

学校教育において、児童生徒が学びの場で実践している「①課題を発見する力」「②課題を設定する力」「③読み取る力」「④選択する力」「⑤整理する力」「⑥まとめる力」「⑦改善する力」を使い、一連の学びのプロセスで身に付いた手応えや実感を通して、主体的、能動的に自己調整しながら学び続け、さらに学び続けることで粘り強さやコミュニケーション力、創造力などを養うことができる好循環なサイクルに転換していきます。この「学び続ける力」は、学校教育だけではなく、どの世代にとっても共通するものとして、軸となる考え方に設定します。





【仮称】町田市教育プラン 2024-2028 教育目標（案）について

【教育目標の設定】

本計画の教育目標は、町田市教育委員会が、町田市の教育施策を通じて、町田市の子どもたち、保護者、教員、市民とともに、実現したい社会の姿を表すものとして設定します。

【教育目標の検討プロセス】

町田市の子どもたち、保護者、教員や教育に関わる関係機関等からの意見、及び昨今の社会情勢や国の方針を参考とするため、以下の3つのカテゴリから導かれたキーワードをもとに、教育目標案を検討します。

- ・社会情勢や教育分野に関わる国の方針
- ・児童・生徒、保護者、教員のアンケートで多く寄せられた意見
- ・町田市内で活動する教育に関わる関係機関及び関係団体等へのヒアリング調査で得られた意見

【教育目標（案）】

案1 思いやりの心を持って ともに学び ともに育ち まちだの未来を創り出す

案2 知ることが楽しくなる まちだの学びの循環で ひとりひとりの幸せと みんなの幸せを創る

案3 自ら学び、あなたと学び、ともに創る町田の未来

案4 一人ひとりの学び続ける力を共創社会により育むことで、誰もが創り手として社会に関わり、しあわせに生きることのできる未来のまちだを創る。

■社会情勢■

- ・<世界>人口の増加と食糧供給の限界、温暖化の進行と水位上昇、オゾン層の破壊
情報技術の飛躍的な進化による AI、ロボット、ネットワーク開発の推進
- ・<日本>人口の減少、少子化、超高齢社会の進行
核家族や共働き世帯、ひとり親世帯の増加など家族形態の複雑化・多様化
全人口に対する高齢者割合の増加と長寿化、健康寿命の延伸
学校の統合・老朽化、支援を必要とする子どもの増加
教員の業務の多忙化と成り手の減少
- ・<東京>人口の減少（2025年以降減少に転じる予測）
- ・<町田>人口の減少（2021～25年の間にピークを迎え、減少傾向に転じる予測）

■教育分野に関わる国の方針■

- 『令和の日本型学校教育』の構築を目指して
・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- 「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」
・社会構造の変化の中で新しい価値を生み出すのは「人」であり、これから人と違う特性や興味を持っていることが新しい価値創造・イノベーションの源泉
・「ウェルビーイング」を実現できる「創造性」あふれる社会に向けた学びへの転換が必要
- 『次期教育振興基本計画』諮問
・社会人の学び直し→リカレント教育
・幼児教育、義務教育の基礎の上に、高校から大学院までつながりをもつ
・共生社会の実現に向けた社会的包括の推進

2040年以降の社会

- 望む未来を私たち自身で示し、作り上げていくことが求められる時代
- 超スマート社会（Society5.0）
・一人一人の人間が中心となる社会
 - ウェルビーイング
・一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の幸せ

■キーワード■

- ・個別最適な学びと協働的な学び
- ・どのように学ぶか（主体的・対話的で深い学び）
- ・リカレント教育
- ・人と違う特性や興味
- ・新しい価値創造、イノベーション
- ・共生社会の実現
- ・望む未来を私たち自身で示す
- ・超スマート社会（Society5.0）
- ・ウェルビーイング

■児童・生徒、保護者、教員アンケート調査で多く寄せられた意見（多い順）■

<町田市の教育においてみんなが目指す姿や大切にしたいこと>

児童・生徒	保護者	教員
1.礼儀を大切にすること	1.感謝の心を大切にできる人	1.お互いを認め合える人
2.コミュニケーション能力	2.自分にも他人にも優しくできる人	2.自分にも他人にも優しくできる人
3.出合いを大切にすること	3.幸せを感じることができる人	3.感謝の心を大切にできる人
4.自分の楽しみを見つけること	4.お互いを認め合える人	4.みんなで助け合える人
5.好奇心	5.将来の変化に柔軟に対応できる人	5.将来の変化に柔軟に対応できる人

■児童・生徒アンケート調査（自由記述）■

<あなたが考える町田市の未来の教育イメージ>

- ・自分と向き合い自分を見つける町田の教育
- ・知ることが楽しくなる町田市教育
- ・新しい未来 新しい発見 町田教育
- ・自分のため皆のためそして未来のために様々なことを行うこと
- ・ひとりひとりの幸せは みんなの幸せ♡
- ・自分たちの思い描く幸せな未来を創る町田の教育
- ・自分の生きがいを見つけて未来へはばたく町田市教育
- ・自分を認め、自分を愛せる人

■キーワード■

- ・自分を見つける
- ・知ることが楽しくなる
- ・新しい未来
- ・自分のため皆のため
- ・幸せな未来を創る
- ・生きがい
- ・自分を認める、自分を愛する

■ヒアリング調査①～未来を見据えた学び～■

- ・外国人に関わらず、自然にコミュニケーションが取れる大人になってほしい
- ・どんな子どもでも、まずは信頼関係の構築が重要
- ・ICTを活用し、子どもたちが自ら学ぶ情報モラル

■ヒアリング調査②～学びの保障～■

- ・個々の実力に応じた学習提供体制の整備
- ・子どもたち一人ひとりの特性を認めること
- ・複合的な問題への対応は、支援をする側の線引きしすぎない役割分担が重要
- ・地域の専門機関との日ごろからの関わりが、必要なときにスムーズな連携につながる

■ヒアリング調査③～学びの環境整備～■

- ・個々の実力に応じた学習提供体制の整備
- ・学校間のICT活用の差をなくし、均一化を図る

■ヒアリング調査④～学びを支える体制～■

- ・地域と学校が共に取り組むことが郷土愛を育む
- ・学校の困りごとを地域と共有して協働関係を構築する
- ・校長や教員がいなくなっても続いていく地域の取組を育む体制づくり
- ・地域での学びは学校教育では学べない貴重な体験
- ・地域のコミュニティ形成が、子どもたちへの居場所づくりにつながる
- ・学びをサポートする人員の体制整備と取組の周知徹底
- ・外部人材の学校導入で、教職員の働き方改革へつなげる

■キーワード■

- ・自然な多文化交流
- ・テクノロジーを使いこなす
- ・個々の実力 ・信頼関係 ・郷土愛
- ・多様な外部の力 ・地域で育む
- ・一人ひとりの特性 ・線引きのない
- ・地域コミュニティ
- ・日ごろからのつながり

(仮称) 町田市教育プラン 2024-2028 教育目標 (案) 解説

案1

思いやりの心を持って とともに学び とともに育ち まちだの未来を創り出す



- ・自分にも他人にも優しくできる。
- ・礼儀を大切にする
- ・感謝の心を大切にできる
- ・コミュニケーション能力
- ・出会いを大切にすること
- ・お互いを認め合える
- ・協働的な学び
- ・共生社会の実現
- ・将来の変化に柔軟に対応できる
- ・望む未来を私たち自身で示す

「町田市教育委員会は、子どもたちを含めた全ての市民が、優しさや思いやりの心を持って、一人ひとりの特性に合わせた学びを進めるとともに、それぞれの違いを認め合い、協働して学んでいくことで、自分たち自身で望む未来を作り出すことができる地域社会の構築を目指します。」

案2

知ることが楽しくなる まちだの学びの循環で ひとりひとりの幸せと みんなの幸せを創る



- ・好奇心
- ・自分の楽しみを見つける
- ・知ることが楽しくなる
- ・主体的・対話的で深い学び
- ・リカレント教育
- ・みんなで助け会える人
- ・自分の楽しみを見つける
- ・好奇心
- ・個別最適な学び
- ・一人ひとりの特性を尊重
- ・ウェルビーイング
- ・望む未来を私たち自身で示す
- ・将来の変化に柔軟に対応できる

「町田市教育委員会は、子どもたちを含めた全ての市民が、好奇心をもって自分の楽しみを見つけ、さらに学び続けていくことで、一人ひとりの多様な幸せとともに社会全体の幸せを自分たち自身で創っていくことのできる地域社会の構築を目指します。」

案3

自ら学び、あなたと学び、ともに創る町田の未来



- ①・自分の楽しみを見つけること
- ・好奇心
- ・自分を見つける
- ・知ることが楽しくなる
- ②・コミュニケーション能力
- ・お互いを認め合える
- ・協働的な学び
- ③・将来の変化に柔軟に対応できる
- ・望む未来を私たち自身で示す

「町田市教育委員会は、全ての市民一人ひとりが、学びを通して自らの生きがいを見つけ、他者への理解を深め、学び合うことで、自らが望む未来を創造することができる地域社会の構築を目指します。」

案4

一人ひとりの学び続ける力を共創社会により育むことで、誰もが創り手として社会に関わり、

- ・主体的・対話的で深い学び
- ・リカレント教育
- ・人と違う特性や興味

- ・共生社会の実現
- ・望む未来を私たち自身で示す
- ・人と違う特性や興味

- ・共生社会の実現
- ・望む未来を私たち自身で示す
- ・自分のため皆のため
- ・幸せな未来を創る
- ・地域コミュニティ
- ・地域で育む

しあわせに生きることのできる未来のまちだを創る。

- ・ウェルビーイング
- ・自分の楽しみを見つけること
- ・生きがい

- ・望む未来を私たち自身で示す
- ・将来の変化に柔軟に対応できる
- ・幸せな未来を創る

「町田市教育委員会は、子どもたちを含めた全ての市民が、一人ひとりの学んでいく力を、お互いを認め合う中で育んでいくことで、誰もが自分たち自身で望む社会を創る創り手として関わり、自分の楽しみをもって生きることが出来る地域社会の構築を目指していきます。」

基本方針・施策体系案について

基本方針Ⅰ 未来を切り拓くために生きる力を育む

<課題>

- ・人口減少やデジタルトランスフォーメーション、地球環境問題などがこれまで以上に進行しており、将来の予測が困難な状況となっています。また、グローバル化、超スマート社会の実現に向けた技術革新も急速に進んでいる中で、論理的な思考力・判断力・表現力・他者との調整力・新たな価値を創造していく力を育むために、町田市の強みを活かした学びを推進する必要があります。
- ・人生100年時代を迎え、健やかな身体と心を育成していくことや、変化に対応していくため、生涯にわたって学ぶ意欲を育てることが重要となっています。

☞ いごのまちだ推進事業など、町田ならではの強みを生かし、これからの時代に必要な知識・技能・判断力・表現力・創造力・粘り強さやコミュニケーション能力を学びのプロセスを通じて育みます。

☞ めざす姿：主体的に自己調整しながら学び続ける土壌を根付かせることで、生涯にわたり学びを通じて、社会とつながっている。

<施策案>

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1 確かな学力を身に付ける | 4 他人への理解、思いやりを育む |
| 2 未来を見据えた特色ある学びを推進する | 5 学びのきっかけとなる機会を提供する |
| 3 生涯を通じて健やかに過ごせる体を育成する | |

基本方針Ⅱ 一人ひとりの多様な学びを推進する

<課題>

- ・子どもたちを取り巻く社会問題として、不登校児童・生徒数、特別支援教育を受ける児童・生徒数の増加やいじめ重大事態の発生が挙げられます。様々な環境に置かれている児童・生徒に対して、一人ひとりのニーズに応じて安心して学べる環境を整えていく必要があります。
- ・多様な社会的課題を抱えている方など、学ぶことに支援が必要な方へ学びの機会を提供する必要があります。

☞ 一人ひとりの教育的ニーズは異なるという前提に立ち、それぞれの特性に応じた多様な学びを推進します。

☞ めざす姿：どのような境遇にあっても、学びたいという意欲を妨げられることなく、安心して学びに向き合い、学び続けることができている。

<施策案>

- 1 いじめ防止、不登校対策を強化する
- 2 とともに認め合いながら特別支援教育を推進する
- 3 多様な学びの機会を提供する

基本方針Ⅲ 将来にわたり学ぶことのできる環境を整備する

<課題>

- ・将来を見据え、小・中学校の機能向上と老朽化対策を目的とした改修・建替えを計画的に進め、学校施設に求められる機能・性能の確保やライフサイクルコストの縮減を図っていく必要があります。また、町田市ならではの魅力的な教育環境の実現に向けた取組が求められています。
- ・市民が必要な知識を得るための情報をインターネット上から得ることが多くなっています。こうした状況に対応して、学びの環境のデジタル化を推進する必要があります。
- ・持続可能な学びの環境をつくることが求められています。

☞ 新たな学校づくりを契機とした、子どもも大人も学ぶことのできる学校づくりや、社会の変化に応じて、学習施設だけでなくデジタルでも学びにアクセスできるような多様な学びの環境づくりを推進します。

☞ めざす姿：環境変化に対応し、いつでもどこでも誰でも学びに出会うことができ、学び続けることができる環境が整備されている。

<施策案>

- 1 未来を見据えた多様な学びの環境を整備する
- 2 学び続けることができる環境を整備する

基本方針Ⅳ 地域とともに学ぶ力を高める

<課題>

- ・多忙化している教員の業務の適正化を図り、教員がいきいきと子どもに向き合うことのできる体制を確保することが求められています。
- ・「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働本部」の仕組みを最大限に活用し、地域が一体となって子どもたちの学びや育ちを支えていく必要があります。
- ・学校、地域、家庭、市民団体、行政が共創することにより、市民が将来にわたり学ぶ環境を持続させることが出来る体制を構築することが必要となっています。

☞ 学校、地域、家庭、市民団体、行政が共創することで、学びの場を広げ、学ぶ力を育む体制を充実させ、地域で学び続ける力を高めていきます。

☞ めざす姿：地域資源を活かし、共創により学校を中心とした多様な学びが充実し学び続けることができている。

<施策案>

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1 教員の働き方を改善する | 4 地域での学びを推進する |
| 2 学校と地域が連携した学びを推進する | 5 学習成果を活かす機会の整備を整備する |
| 3 学校のマネジメント力を強化する | |